

文化財 だより ふるさと再発見

② 村のおきて「五人組仕置帳」

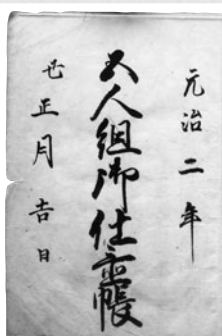
「五人組」は、江戸時代の初めに定着しました。幕府の経営政策の基盤は、コメをはじめとする年貢でした。幕府にとって、多くの年貢(税)を確保するためには、農村の生産や生活を安定・維持していく必要性がありました。

五戸前後を一組として、年貢を完納すること、犯罪防止に連帯を持たせること、幕府の通告が末端まで達することなどを目的とした、最末端の行政機構が「五人組制」でした。この機構は、内容の変更をしながら明治以降も続き、今日の町内隣保班として残されています。

このような制度を維持するために作成されたのが「五人組仕置帳」です。仕置きとは取り締まりの意味です。内容は、年貢関係はもとより、賭け事、宗教、結婚、葬儀、衣服、居住、訴訟、わいろなど

まで、全般にわたっての仕置きが決められています。村人は、この仕置きに反するような事をすれば、村には居られませんでした。反面、これによって村の生活がお互いに強く支えられていました。社会生活に必要な基本的な項目の幾つかは、今日にも通じるものです。

「五人組仕置帳」は、各村々で書き写されて、それぞれの村で保管されてきました。左の写真は、泉町久尻の鈴木勝利氏のご先祖が、百五十年前に書き写された、大麥保存状態のよい、久尻村の「五人組仕置帳」です。



教育夢 発信 泉西小学校 「少人数指導の取り組み」

泉西小学校では、昨年度から算数科において、すべての学年で少人数指導を行っています。

例えば、一クラス四十人の学級で一斉に学習を進めていく場合、児童一人ひとりの興味・関心の持ち方や学習に対する取り組み方・理解度などに個人差があるために、どの児童にも同じように発言や活動の機会を設けることは困難になります。そこで、個々の児童に応じた、よりきめ細かな指導をするために、一つのクラスを二つのグループ(教室)に分け、それぞれ一人ずつの教師がついて授業を行うというものです。

昨年度、二年生と五年生は、それぞれ四十人の学級でした。その一クラス四十人を二つのグループに分けて授業を行うことで、二十人での授業となりました。

このことで、教師の児童一人ひとりにかかる時間が多く持てるようになり、つまずきにに応じて手だてをうつなど、よりきめ細かな指導ができるようになりました。

また、集団が小さくなったことで今まででなかなか発表できなかった児童も発表できるようになったり、分からないことを気軽に友達などに質問したりすることができるようになりました。



りました。その結果、学習に対してやる気が出てきたり、学習したことがよりよく理解できたりするようになりました。

しかし、少人数でやればよいというものでもありません。大勢でいろんな意見を出し合う場合も大切にして、少人数の分け方を工夫したりすること、配慮しなければなりません。一人ひとりの児童が、「分かった」「できた」「楽しい」といえる授業を、今後も少人数指導の取り組みを通して考えていきたいと思っています。